

令和7年度 第1回 大田区子ども未来会議（議事要旨）

日時：令和7年12月18日 午後1時45分～午後3時45分

会場：大田区役所本庁舎2階 201・202・203 会議室

出席委員：大竹会長、森副会長、山下委員、金谷委員、津久井委員、豊島委員、井出委員、斎藤委員、近藤委員、濱住委員、野村委員、加藤委員、菊地委員、剣持委員、大塚委員、神山委員、金田委員、内山委員、石丸委員、田尻委員、田村委員、中坪委員 22名

区側出席者：森岡子ども未来部長、酒井子ども支援担当部長、柳沢子ども未来課長、臼井子ども未来部副参事、青木子育て支援課長、武田子ども家庭担当課長、松尾子ども家庭支援センター所長、山本子ども家庭総合支援センター開設準備室長、池田調布子ども家庭センター長、丹野保育サービス課長、齊藤保育サービス推進担当課長、神谷子ども未来部副参事、田中地域力推進課区民協働・多文化共生担当係長、竹田青少年・生涯学習担当課長、塚本障がい者総合サポートセンター所長、鈴木教育総務課長、志賀指導企画担当課長 17名

1 開会

鈴木区長あいさつ及び委員委嘱ののち、委員の互選により会長職に大竹委員、副会長職に森委員が就任。

2 議事

(1) 子ども・若者・子育てに関する計画の統合について

【柳沢子ども未来課長】

資料4-1、4-2により説明

<主な質疑・意見>

【森副会長】

統合という話だが、単なる統合ではなく、様々な課題を調整しながら変えていくという理解でいいのか。

【柳沢こども未来課長】

これまで地域力推進部や福祉部など他の部局が計画の策定を担っていたが、今回これをこども未来部で一元化した。こども施策をより充実させるという観点から、3つの計画を単純に統合するだけでなく、各分野を拡充させていく。

【田尻委員】

令和10年度から新たな計画が開始されるということで、令和8年度からアンケート調査が実施されると思うが、計画策定のスケジュールを示してもらいたい。また、前回の子ども・子育て会議でアンケート調査が既に設計されており、修正が難しい段階で見せてもらった記憶がある。できるだけ早期に示してもらい、こどもたちを含む当事者の声が適切に拾えるよう検討してもらえればと思う。

【柳沢こども未来課長】

大まかなスケジュールについては資料4-1の表に記載している。アンケートの項目案の提示時期、決定時期、実施時期、対象や規模などについては、現在調整している。案の変更や意見調整が可能な段階で本会議に諮りたいと考えている。

【大竹会長】

そのあたりをしっかりと検討してもらい、本会議に諮ってもらえるということですね。それでは、計画の統合について、事務局から提示された内容で取り組んでください。

(2) 特定教育・保育施設の開設に係る意見聴取（幼稚園）について

【鈴木教育総務課長】

資料5-1、5-2により説明

<主な質疑・意見>

【野村委員】

幼稚園の設置体は3つの枠組みがある。私学助成の学校法人、宗教法人、そして個人立からなっている。今回はこの枠組みから子ども・子育て新制度に移る幼稚園についての案件となる。新制度に移ったから経営が安定するとは限らないが、今後新制度への移行は増えると思われる。

【大竹会長】

この2園についてご意見なしということによろしいでしょうか。

意見なしということで、この2園については手続きを進めてください。

(3) 令和6年度の実績報告について

【柳沢こども未来課長】

資料 6-1、6-2 により説明

<主な質疑・意見>

【森副会長】

総合評価「4」で目標を下回った指標と上回った指標があるようだが。

【柳沢こども未来課長】

「概ね計画どおり」という評価のため、上回っているのか下回っているのかわかりにくい点があるかもしれない。例えば基本目標2の保育サービス定員数は、目標値1万8846人に対し実績が1万7932人と下回っているが、令和3年度に待機児童ゼロが達成されたため、このレベルの整備で十分だったということになる。次回の計画策定の際には、よりわかりやすい評価ができるようにしていく。

【内山委員】

基本目標3のかかりつけ医がいる区民の割合が、唯一「計画以上の進捗」という評価になっている。数字が伸びていないように見えるが、理由は何かあるのか教えてもらいたい。

【柳沢こども未来課長】

こちらは健康政策部所管事業です。かかりつけ医の推進事業に取り組み、今後の小児初期救急医療体制の充実とともに、かかりつけ医の重要性を周知啓発していくという報告をもらっている。数字の上では伸びが限定的ですが、所管課としても改善の必要性を認識し、さらに周知啓発を進めていくという意気込みを込めたものと思われる。

【田村委員】

個別目標3-2の20歳未満の自殺死亡率が平成27年度の2.8から令和5年度6.9、令和6年度3.0と大きく変動していますが、なぜこの評価が「計画どおり」になっているのか説明してもらいたい。この評価は区が実施した事業に対する評価なのか、それとも実際に自殺者が減ったかどうかという評価なのか、お聞きしたい。

【池田調布こども家庭センター長】

新型コロナウイルスの蔓延時期に自殺数が増加していた。令和 6 年度の 3.0 という値は、平成 27 年度の 2.8 に近づいてきたという動きをとらえて評価をした。具体的には、関係機関と連携して SOS の出し方教育や相談窓口の周知など、予防施策に取り組んできた。ただ、若者の自殺は重大な課題と認識しており、引き続き対策を強化していく必要があると考えている。

【大竹会長】

本当に若者の自殺は深刻な課題である。全国的に自殺は減少傾向にあるが、若者の自殺は 500 人を超える状況が続いており、重く受けとめなければならない。大切なのは、若者が「助けてと言えば聞いてもらえる」という社会を作ること。社会的養護のこどもたちから始まった声を聞く取り組みを、一般のこどもたちにも広げていく必要がある。学校の先生、家庭の親御さん、地域の皆さんが、それぞれの場面でこどもたちの声に耳を傾けることが大切である。

【山下委員】

基本目標 1-3 の子育てひろば利用者数は、計画策定時が 25 万人で目標 27 万人に対し、令和 6 年度は 48 万人とのこと。これは計画通りというレベルではなく、計画を大きく上回る成果ではないか。利用者数が 2 倍近くに増えているのは本当に素晴らしいことだと思う。その背景を聞かせてください。

【柳沢こども未来課長】

大田区では乳幼児の居場所として、保育所併設施設と子ども家庭支援センターの専用施設に加え、令和 2 年度から学童保育の学校内移行に伴い、児童館に子育てひろばをつくった。また、これまでのタイムシェア制から、午前中から昼間にかけて乳幼児親子が気兼ねなく利用できるようなもなったため、利用者が増えたと考えている。施設利用の変更という側面もあるため、総合評価を控えめに「計画どおり」としてはいますが、このような成果が得られたことについては、今後の施策にも活用していきたいと考えている。

(4)「大田区子ども・若者計画」の計画期間の延長について

【事務局】

資料 7 により説明

<主な質疑・意見>

【豊島委員】

2点確認させていただきたい。まず4ページ、5ページの目指す姿についてですが、右側の3つの四角で囲まれた部分を見ると、主語がこどもと大人の両方になっており、見づらくなっている。こどもが主語の場合と大人が主語の場合を分けて書いてはどうか。

2点目は7ページについて。若者全体がお金や将来、就活について大きな悩みを持っているとあるが、下のアンケート結果と対比させて、太字やアンダーラインを引くなど、より見やすい表現にした方がいいのではないか。

【柳沢こども未来課長】

現在、素案の段階としてお出ししており、修正が可能である。1点目のご指摘について、若者の視点での目指す姿と支援者の視点での目指す姿を明確に分けることで、より分かりやすくしていきたい。2点目についても、ポイントを太字やアンダーラインで表現し、分かりやすくしていく。

【井出委員】

このアンケートの回答率が25%というのは、ある程度子育て施策に関心のある方の意見だと思う。そういった人たちの声を大切にしてもらいたい。一方でフラットおおたの認知度が低い状況は課題です。またフラットおおたは1ヶ所だけなので、大田区は広いため、わざわざそこまで相談に行くのは難しいのではないか。まずはフラットおおたにしかできない居場所づくりをすることで、相談のためではなく、フラットおおただから行きたいという施設にしてはどうか。

【山本開設準備室長】

認知度については、まずはターゲットである若者層に対して、より広く周知する必要がある。現在、中学校や私立高校に対して周知活動を進めており、区報にも掲載している。また、場所に関しましては、今後蒲田にも相談先を整える予定で、大田区内の蒲田と大森で相談が受けられる体制を整えていきたいと考えている。

【濱住委員】

フラットおおたでチャット機能での相談については、現在も動いているかどうかについて、学校配布のタブレットのデスクトップに相談窓口への接続機能があると聞いたが、フラットおおたに繋がるようになっているのか教えてください。

【山本開設準備室長】

チャット相談については、月に何件かの相談があり、オペレーターを配置して即座に対応している。

【志賀指導企画担当課長】

タブレットのデスクトップには各種相談先にアクセスできる機能があり、教育センターなどに繋がるようになっている。小中学生はスクールカウンセラーや教育センターを通じて相談することが多い。小学校4年生以下を対象としたページからは、現状フラットおおたには直接繋がるようにはなっていない。小学校5・6年生及び中学生対象のページからは、フラットおおたに直接繋がるようになっている。

【森副会長】

こどもについては「子育て」と「子育ち」という言葉を分けていますが、若者についてはそのような対応をしていないのか。若者についても、若者自身が成長していく側面もあれば、若者を支える側面もあるのではないかと考えている。

【柳沢こども未来課長】

これまで若者施策については自立支援や当事者本人にフォーカスしているが、若者を支える保護者の方からも不安の声を聞いている。次の計画統合の際には、そうした多角的な視点を整理し、より包括的に取り組んでいきたいと考えている。

【大竹会長】

フラットおおたは何歳まで対象になりますか。

【山本開設準備室長】

おおむね39歳まで。39歳迎えたからといって支援をきめることはなく、ご利用いただいている方の中には40歳以降の方もいる。一例として、転職等で上京してきたけどコロナ化で周りとの接触がなく、誰かとつながりたい、相談したいという方がわりと年齢の高い方でもフラットおおたを利用いただいている。

【大竹会長】

こども家庭庁の「こども」がひらがなになったのは、「こども」とは発達過程にあるものとされたため。「こども」には若者も入っていて、年齢ではない。

山下委員、豊島区のジャンプで若者支援をやっているみたいですが、何か感想コメント

ありますか。

【山下委員】

大田区ではフラットおおたと中高生ひろばが2か所。豊島区では中高生ジャンプが2カ所ある。豊島区で子どもの権利擁護委員として、そこで月1回いっしょに遊び、アウトリーチしていると、こどもたちから家庭内の困りごと、学校での困りごと、性での困りごと、バイトでの困りごとなどの相談を受ける。

相談来てくださいという感じだとなかなかこどものほうから相談しにくい。こちらのほうからこどもたちの居場所や遊んだりするところに出向いていく仕組みが大田区ではどうなっているのか気になる場所でした。

【山本開設準備室長】

フラットおおたでは就労支援のJOBOTAと引きこもり支援のSAPOTAと連携している。ひきこもりであればSAPOTAという居場所である程度過ごしてもらい、就労ならばJOBOTAに相談という形で連携している。

国は令和8年度を若者施策支援の始動の年としている。関係機関とのつながりやアウトリーチを拡充していく必要があると捉えている。先進自治体を参考にしていきたい。

【田尻委員】

14ページの「悩みや困りごとを抱える若者を生じさせない支援」という表現に違和感がある。悩みや困りごとを完全になくすことは難しく、むしろ自分で解決する力を育むことや、大人が解決の手立てを提供することなどが必要ではないか。

また、「若者が抱える悩みや困りごとを踏まえた支援」という記載があるが、具体的な事例を教えてください。

【柳沢こども未来課長】

「悩みや困りごとを生じさせない支援」という表現のあとに、括弧で「予防的支援」と記載した理由は、問題が生じてからの対応ではなく、未然に防ぐという視点を強調したかったためである。表現については検討していく。また、具体的な事例については、フラットおおたやアウトリーチを通じて聞いた若者の声があるので、そうした事例を取り入れていきたいと考えている。アンケートだけでなく、発言できない若者、発信できない若者の声をいかに拾うかが課題だと認識しており、アウトリーチの充実を図っていく。

【田尻委員】

声をいかにひろうかが大事。発信できない、しない方の声をどう聞いていくのか課題が

あると思う。

【柳沢こども未来課長】

中高生の子たちに出向いて聞いてはいるが、言いたいことがあるけどなかなか対面では言いづらい、人前では言いづらいという声もある。電話で相談するにはとても勇気がいるといった子たちの声もある。それらをいかにキャッチするかが課題と感じている。

【大竹会長】

声なき声をどう拾っていくかがポイントですね。よろしく申し上げます。

(5) 大田区こども未来会議の専門部会の設置について

【柳沢こども未来課長】

資料 8-1、8-2 により説明

<主な質疑・意見なし>

【大竹会長】

それでは、2つの部会設置についてはこの案で進めてください。

3 その他

(1) 大田区こども未来総合センターについて

【山本開設準備室長】

資料 9 により説明

<主な質疑・意見なし>

【大竹会長】

ありがとうございました。このように見相と区の機関が同じ建物で新たなモデルを構築していく点は大変期待できる。

【柳沢こども未来課長】

次回の会議開催日は令和 8 年 2 月 2 日（月）を予定している。開催方法や議題等詳細が決まり次第、ご連絡する。

以上